

業務の新聞

第33号

平成30年 11月28日

冬のボーナス

「労働組合に入っていないくともちゃんとボーナスが出た」「良い会社だ！」などの言葉が職場では聞かれました。

本当に「良い会社」なのでしょうか？何だか上から“パラパラ”とまかれるエサに“パクパク”と食いつく社員の姿を“シメシメ”と見ている方々が見え隠れするようです。

労働条件の維持・向上は労働組合の責務であり、組合員・家族の要求・要望を実現するために、仲間たちと奮闘するのが労働組合の姿勢です。

今一度、己と己の会社・職場を見詰め直し、“勝ち取る課題・要求”“闘う相手”“共に闘う仲間たち”などについて考え、“わしゃわしゃ”と話しましょう。

私たちの仕事

AIやIOTなどの文字が会社施策の中で多くなり、“効率化”“生産性の向上”“グループ会社と一体となって”と様々な施策が展開されています。

JR本体業務の効率化・業務見直し、グループ会社への業務委託、エルダー社員制度導入など私たちの仕事は大きな変化のなかにあります。

安全・正確・サービスをお客様に提供するために、私たちは知恵を出し、体を動かして、職場では奮闘しています。職場の主役たる自負を持って日々仕事に向き合っています。その中で気付く気がかりや不安・不満を“放置”せず、改善・改良に向けた取り組みを仲間たちと進めていかなければなりません。

歩を止めず、歩んで行きましょう。

“社員説明会”？！

基地再編の“社員説明会”が各職場で企画されています。しかし残念ながら労働組合に対する会社提案は、窓口間での調整もまだありません。

以前の“社員説明会”では、社員の質問に答えることもしない・出来ないことを覚えていましたか？

「話した」という既成事実だけを残したいのか、「話した」ということだけで施策を進めるということなのかよく分かりません。

職場で「生きる」私たちの真価が問われることは間違ひありません。疑問・不安をそのままにせず、シッカリ・キチンとそして堂々と問題提起をしていきましょう。

『本体エルダー』にも大きく関わってくることは容易に想像出来ます。遠慮せず“社員説明会”での奮闘をお願いします。

各職場での問題点などは、地本に寄せて下さい。

甘言と諫言

現在、私たちの会社では、労働組合に加入していない社員が3万人以上いるそうです。

『オープンショップ制』の会社ですから労働組合への加入・未加入は“社員本人の意思”になります。

昇進試験や転勤などに際して「悪いようにはしない」などの“甘言”に己の将来を賭けた方もいらっしゃるようです。耳の痛い“諫言”には、“聞いたよポーズ”でその場を逃れるエライ方もいらっしゃるようです。良い会社・良い職場を創造するためには、もっともっと質の高いコミュニケーションが不可欠だと考えます。